

会長就任のあいさつ

田名部元成（たなぶ もとなり）
横浜国立大学

この度、2021～22年度期に引き続いて、2023～24年度期の一般社団法人経営情報学会の会長を務めさせていただくことになりました田名部元成です。2020年1月30日に世界保健機構（WHO）から発せられた新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態の宣言から、その終了まで、実に3年3ヶ月という時間が経過しましたが、その間、社会経済、産業構造、ビジネスモデル、仕事や働き方、健康・医療、教育・学習など、さまざまな分野で大きな変化が生まれました。コロナによる不可逆的な社会への影響に加えて、国際情勢の大きな変化、生成AIの急速な社会への浸透など、さまざまな要因が絡み合っ、私たちは、まさに変動性、不確実性、複雑性、および曖昧性がますます高まる時代の只中にあります。私は、このような時代にあって、経営活動における情報と情報技術の効果的な利用を追求する経営情報学は、より良い社会づくりに必要な重要な役割を果たすものと確信しております。

今期から、「経営情報学会は、組織体における経営上の意思決定や組織的プロセスを効果的に支援するための情報システムがもたらす影響や価値に関する知識を多様な視点から探求し、国際的な視野から社会へ発信することを通じて、学术界と産業界をリードし、経営情報学の進歩と社会の発展に貢献する」という展望を会長ビジョンに据え、また、このビジョンを実現するために「萌芽育成」を学会コアバリュー（行動指針）として掲げて、経営情報学会の国内外における学術的プレゼンスの向上を目標として、経営情報学会の活動を展開していきたいと考えています。

この萌芽育成とは、具体的には、①既存の概念や既存の価値観に捉われないオープンな態度で本質を見抜く虚心坦懐の洞察、②未完成なアイデアや不完全な理論を批判的思考で相互に磨き上げる切磋琢磨の洗練、③課題解決のために知識を実践に移し、得られた知識を共有する知行合一の実践を指します。



年次大会や全国研究発表大会、研究部会や地域支部、学会誌の編集・発行に係る理事会としての意思決定の際には、この萌芽育成を念頭に置いて検討を行っていきたくと考えています。会員の皆様におかれましても、学会諸活動において、上記の萌芽育成を指針として行動していかれることを期待いたします。

今期の目標は、上で述べた通り、経営情報学会の国内外における学術的プレゼンスの向上です。そのために、研究者間そして研究者と実践者の交流を促進することにより、学術知と実践知の共創をもたらし、それらの対話を通じて、世界に通用する学術的成果を生み出していけるよう当学会のケイパビリティを高め、持続的な発展ができる学会の実現を目指します。この目標は、2021～22年度期にも掲げたものですが、コロナ禍という状況下で、十分に活動が展開できない側面もありました。今期は、この目標の実現のために、以下の活動を展開して参りたいと考えています。

活動の一つ目に、年次大会と全国研究発表大会の役割を明確化し、参加者の会員経験を向上させ、研究の多様性と水準の向上を図ります。二つ目に、研究部会と地域支部が、絶え間のない全域的なコミュニケーション機会を多くの会員の皆様に提供し、活動成果を向上できるように、持続可能な研究部会と地

域支部の在り方を検討します。三つ目に、学会誌への投稿数の増加と掲載論文の質が向上するよう、現状の学会誌論文採択方針や査読や論文賞推薦のプロセスの検討を行います。四つ目に、年次大会や全国研究発表大会の開催、研究部会や地域支部の活動、学会誌への論文等の掲載、その他、シンポジウムやワークショップなどの学会活動に関する情報をより迅速に会員の皆様および一般に向けて発信するための現状体制を点検し、学会活動の認知度向上を図ります。

今期は、学術知と実践知の萌芽を大切にし、それらを育てていくという、前々会長の掲げた学会の方針を学会コアバリューとして具現化し、今後のより良い情報社会の実現に貢献できる学会、そして、会員の皆様がやりがいを持って活動できる学会の実現を目指し、副会長、理事の協力のもと、全力を挙げて職務を全ういたします。会員の皆様のご支援を心からお願いいたします。